

炎・高く豪快にどんどやまじい

一・五町内

一月十六日(出)つるやストア裏の名の内公園にて一・五町内のどんどやが行われた。地域住民は午前九時に集合して、消防団と共にどんどやの準備をした。

どんどやの点火は無病息災を願って子ども達の手によって十時すぎに行われた。大きく作られたやぐらは炎を上げて燃え上がる。その周囲に子ども達が竹の先にもちをつるして取り囲み、



もち焼きを始める。大人も子どもも、もち焼きに一生けん命である。公園の隅では、子ども会の役員がげんざいを作って子ども達に振る舞っていた。晴天の中で盛會裡に一・五町内のどんどやは終了した。

二町内

一月十日(日)、出仲間公民館にて、地域住民と子ども達が多数参加して、三代もちつき大会が行われた。つき上った紅白のもちはずも子ども達に配られていた。十日につかれたもちちは、十一日のどんどやでぜんざいの中に入れて、子ども達や地域の住民に振舞われるとの事である。

そして、十一日(月)に出仲間公園に於いて、二町内のどんどやが行われた。当日は朝から地元消防団



によつて、どんどやのやぐらが作られた。また、公園の周辺では、子ども会によるぜんざいの準備がなされていた。同時に公園内に市消防車や起震車が来ていて、地震の体験会も行われていた。

どんどやは、十一時前に子ども達によつて点火された。点火された火は、家内安全、無病息災を願って、天高く燃え上がっていた。子ども達は喚声を上げてどんどやを眺めていた。その後は用意されたぜんざいを、大人も子どもも舌つづみをうつつ食べていた。

生目神社

田迎の史跡めぐり

シリーズ⑬

宮崎市大字生目亀井山三四五番地に、生目神社の本宮がある。主祭神は応神天皇と藤原(平)景清公である。由緒によると、古来、生目八幡宮と称していたが明治維新に至り、生目神社と改称せられた。昔より眼疾に靈驗あらたかなりとして崇敬殊に厚く、「日向の生目八幡宮様」として広く世に知られ直参祈願される参詣者が多い。創建年代については、元龜、天正の兵火で焼失したことによつて不明である。



御神詠に「かげ清く照らす生目の水鏡 未の世までも雲らざりけり」

とある。平景清公を詠いこんだ御歌であろうか。田迎生目神社の歴史は浅く、六十年前後ではないだろうか。それまでは、阿蘇甲佐大明神廟前と書かれた元、石灯笼の竿石が、元、石灯笼の台石の上に建つ祠の前にあつて、祠の中には御幣をつけた榊の小枝が祀つてあつたと記憶する。当時、古老の話では、宮崎生目神社に参詣した篤志家が、「御札」を受けて来て、祠に納めたのが「目の神様」の始まりだと聞いたことがあるが、事実かもしれない。

それは、熊本県神社誌にも様々な関係資料にも生目神社の社名は見出されなからである。〈生目神社は田迎神社内にありたむがえ散歩より〉

三町内

一月九日(出)、晴天の中で三町内のどんどやが砂入公園で行われた。公園が狭いので周囲住民の事を考えてかまど式のどんどやとなつた。

1m五十cm四方のかまどを作り、十一時に子ども達によつて点火された。どんどやには、老人会がぶた汁、公民館からパーベキュー、子ども会がぜんざい等が用意された。また御神酒としてカッポ酒もあり、参加者に振舞われた。



雑巾と竹とんぼ



一月二十九日(金)午後一時三十分田迎小体育館に於いて、中止になつた、児童とのふれ合い活動のかわりに、学校への雑巾と竹とんぼの贈呈が行われた。

一時半に、老人会の各町内の会長六名が体育館に集合し、学校代表の六年生に校区老人会長(堺氏)より雑巾の贈呈が行われた。六年生の代表は「大事に使つて、学校をきれいにします。」とお礼の言葉を言つて雑巾五百枚以上を老人会から頂いていた。

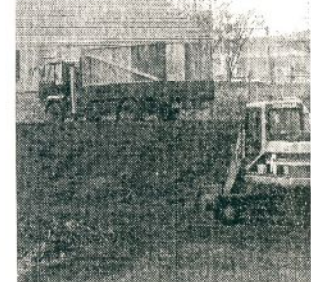
新設校建設

現在、田迎小学校分離校新設の事で、色々と話題が出ているが、一月三十日現在、造成工事が着々と進められている。工事現場の看板には、平成二十二年七月十五日から平成二十二年七月三十一日となつている。

現在、ブルドーザーや大型機械が何台も工事現場に動員されて、工事が進行している。池だった所は、半分以上は埋立てられて、整地が進められている。今年中に造成が終了する

土地造成進む

様である。今後は地盤調査等などの工事が始められて、新設校の建築も二十六年ぐらいには完成する様に思われる。



ありがとう

その後、堺老人会長、とんぼを作つた三町内の老人会長町井氏ととんぼ作を加勢した吉野氏と三人一年生の各教室に竹とんぼを贈呈して回つた。

一年生のどの組も、きちんと席につき、三人の贈者の来るのを待っていた。そして、各教室毎に竹とんぼの贈呈が行われた。会長が竹とんぼを贈呈する前に飛ばしてみせると、子ども達は大喚声を上げて、早く竹とんぼを貰いたいという顔になつていった。子ども達は竹とんぼを貰つて、我が家に帰つていったであろう。



編集後記

〇おめでとうございます。おそくなつて、すみません。今年もよろしくお返しい致します。〇今年度は校区内の出来をたくさんお知らせ致します。〇校区の皆さん方の投稿お待ちしております。